



歴史を訪ねて...

笠岡市の文化財



神島天神祭
(市指定重要無形民俗文化財)

神島天神社は、「島の天神」とも呼ばれ、古くから風光明媚の地として知られていました。その秋祭りは、神島七地区の千歳楽が天神社に集まる賑やかなお祭りです。古記録が残っていないため、来歴は不明ですが、船を使って神社に入る「海上渡御」の伝統を残しています。

昭和五十年頃までは旧暦八月十五・十六日に行われていたのですが、現在では九月の第三土・日曜日に挙行されることになっています。土曜日は宵祭り、日曜日が本祭りです。

神島の七つの地区とは神東・中村・汁方・福浦・高・寺間・見崎のことです。もともと神島は離島であり、全ての地区が船による「お渡り」を行っていましたが、笠岡湾干拓によって港が陸地化し、船が使えなくなった地区では、昭和四七年の祭りを最後に、陸の「お渡り」へと変化しました。しかし、現在でも、神東地区をはじめとするいくつかの地区では、船による「お渡り」を継承・復活させています。

祭りのいちばんの見どころは、各地区の千歳楽が、海と陸から、順次天神社に集まってくる場所です。そして全地区の千歳楽がそろくと、社内でいっせいに練る「総担ぎ」が行われ、祭りの熱気は最高潮に達します。

展覧会と行事のご案内

特別展

三都の女

東京・京都・大阪における
近代女性表現の諸相
9月1日(土)
～10月8日(祝)
伊東深水、上村松園らが描く
女性の姿をご覧ください。

講演会

「近代日本画における
女性のイメージ」
吉中充代氏
(京都市美術館学芸係長)
9月17日(祝)13時30分～
会場：笠岡グランドホテル
無料・要申込 ☎ 63-3967

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

先日、十六夜の晩に、山中越えをやりましてね。あいにく月がなく、まっ暗な空に雲が浮かんで実に神秘的だった。湖上に映った雲もい。十和田湖の湖心に浮かんだ雲、広沢池で見た紅葉の枝と白い雲と水の色の組み合わせなど...

(竹喬のことば)

一時期、竹喬はしきりに雲をスケッチした。中でも秋の雲がすばらしいと言った。何層もの雲のむこうには高く満月が輝いている。夜間、月光でスケッチ帖を開き、空を見上げていたのだろうか。



月と雲

小野竹喬 作
昭和27(1952)年
26.7×35.7cm

竹喬美術館の光彩 57

今月の表紙

広大な敷地一杯に広がる100万本のひまわり。一目見ようと大勢の家族連れが訪れ「きれいな家族連れが訪れ「きれいな家族連れが訪れ...」

8月19日、笠岡ふれあい空港で「大空と大地のひまわりカーニバル2007」が開催されました。真夏の青空の下で、元氣いっぱい空を遊覧するひまわりとそびえ立つ空を遊覧するヘリコプター。思い思いの場所のでひまわりを思い思いの笑顔で記念撮影をしていました。

係から

「笠岡の夏は過ごし易いだよな。」友人の抱く海沿いの望まざるの短絡的イメージ。障りない回答をしようと、やつて来て「こんな暑いとは思わなかった。これなら地元の方が...」と言って去っていきました。今夏、笠岡を離れることになった私は何処にいても無かった私はないと思ってしまうが、彼らにとつては期待を裏切られたことが体感温度を更に上げてしまったのでしようか。(良)



土屋武之 笠原良一

発行日/平成19年9月1日
発行/笠岡市役所
編集/企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷/株国輝堂 ☎67-5111

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています